

極楽寺だより



2020(令和2)年11月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

秋の永代経法要のご案内

新型コロナウイルスの影響で、法座の中止が続きました。今回は次の通り、参拝日を地域別に分ける形でお勤めいたします。お誘いあわせの上、お参りください。

十一月十九日（木）

昼一時半（野波瀬の方のみ）

夜七時半（自由参拝）

十一月二十日（金）

昼一時半

（野波瀬以外の方のみ）

講師 滝部念西寺住職

中山浩司 師

今回、お斎はありません。ご了承ください。

密を避ける為に、

十九日（木）

お昼の座は、野波瀬の方に限らせていただきます。

夜の座は、どなたでも自由にご参拝ください。

二十日（金）

野波瀬以外の方に限らせていただきます。

※市外の方は、申し訳ありませんが、今回の参拝はご遠慮ください。

感染状況により、中止となる場合があります。

次ページの「参拝についての注意事項」を、よくお読みになり、ご参拝くださいますようお願い申し上げます

参拝についての注意点

37.5 度以上の発熱がある方はご遠慮ください。

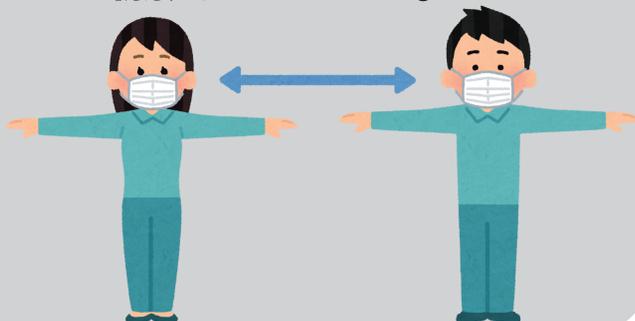


マスク着用をおねがいします。



マスクは、お寺でも用意しています。
おしゃべりも、マスク着用で。

椅子の配置も距離をとっています。ソーシャルディスタンスにご協力ください。



除菌アルコールを用意します。
お使いください。



こまめに換気をします。
寒い時期ですので、
服装にご注意ください。



お取越しの季節です



お寺にご連絡下さい。
日程を調整した上で、
お参りにうかがいます。

マスクで、
お参り
いたします

「お取越し」とは、真宗寺院において最も大切な行事である親鸞聖人のご法事「報恩講」を、ご命日よりお取越して（早めて）各家々で勤めるといふ、真宗門徒にとって大切な伝統行事です。でも、どうしても親戚でもない人の法事を勤めなくてはならないのでしょうか。そこには、大切な心が込められているのです。

お取越しを
お勤めしましょう
キャンペーン

ヤゴは気づかない

近頃は、「人間、死んだら終わりだ」という人が多くなりました。だからでしょうか。新型コロナウイルスの影響が広がる中で、「どうせ死んだら終わりなんだから、好きなことをやった方がいい」といった、身勝手なふるまいが目につくようになりました。

「死んだら終わり」と考える人たちが、よく口にされるのは「死んでかえってきた者なんていないのに、どうして阿弥陀さんやお浄土の存在を証明できるのか」という言葉です。でも、本当にかえってきた人がいないのでしょうか。実は、親鸞聖人こそ、「還ってきた人」と出遇われた方だったのです。とは言っても、巷で言われるような靈感が強い人とは違うのですが…。

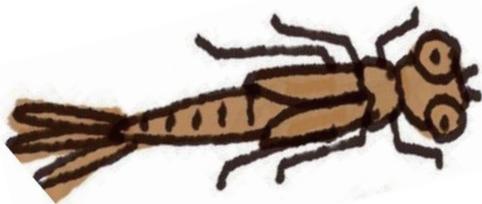
こんな昔話があります。

ある深い池にヤゴ（トンボの幼虫）たちが住んでいました。彼らには、常々不思議に思っていたことがあります。それは、「ある時期になると仲間たちは、みんな百合の枝に登り、水面に出ていく。でも、誰もかえって来ないのはなぜだろう」ということです。

そこで彼らは相談しました。

「次に誰かが水面上に上ったら、必ず戻ってきて、何が起こったのかを話してくれ。約束だよ」「わかった。きっとそうするよ」

固く約束をするヤゴたち。しばらくすると、そのうちの一匹が百合の枝にたどり着き、



水面へ登りはじめました。それを見た仲間たちは、

「キミも、とうとうこの時が来たか」

「約束通り、何が起こったか伝えてくれよ！」

と声をかけました。登っていくヤゴも

「わかった！必ず伝えるから」

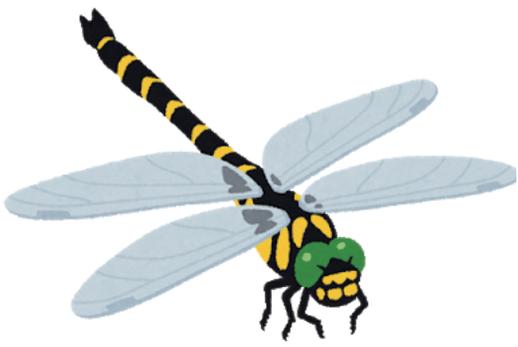
と応えます。

ヤゴは、水面を出たところで脱皮し、美しい羽根を持つトンボに変身しました。彼は、自分がトンボになったことを伝えようと、池の水面を飛び回り、仲間呼びかけます。

しかし、トンボの呼びかけに耳を貸すヤゴはいませんでした。なぜなら、その美しい羽根を持ち、空を自由に飛び回る生き物がかつての仲間の姿だとは思わず、自分たちに向けられた呼び

かけだと気づけなかったからです。

（『座右の寓話』戸田智弘）



この昔話から、私たちは何を学ぶことができるのでしょうか。

私たち人間は、仏様がどんな姿なのか、どうはたらきかけ、呼びかけてくださっているのかを知りません。↘

知っているのは、仏像にあらわされている姿だけです。だから、

どんな形で、どんな姿で仏様と成って還ってこられるのか。どう呼びかけられているのかを、私たちは知らないのです。

にもかかわらず、「かえってきた者はいない」「だから、仏様なんていない」と決めつけているのが私たちではないでしょうか。だとしたら、仏様の呼びかけに気づくことはできません。ヤゴがトンボから呼びかけられても、気づくことができなかつたように。

お念仏の心をいただかれ、また生涯を幼児教育に捧げられた東井義雄先生は、

「聞こうという心がなかつたら 聞いていても聞こえない」と言われています。自分の決めつけで世界を狭め、聞こうとする心がなかつたら、仏様の呼び声は聞こえないのです。

ところで、皆さんは「風」を見たこ

とがありますか？「風」そのものは、目には見えません。しかし、木が揺れるのを見たり、涼しさを感じることで、つまり「風」のはたらきを通して、私たちはその存在を知ります。↗



地球の「重力」も、目には見えません。しかし、私たちが地面に立ち、座り、歩くことができるのは、「重力」のはたらきがあるからこそ。その「重力」を、リンゴが木から落ちたことをきっかけに発見したのが、自然哲学者で物理学者のアイザック・ニュートンです。ニュートンの発見によって、私たちは「重力」の存在とはたらきを知ったのです。



そして、目には見えないけれども、阿弥陀様や、お浄土から仏様と成って還ってこられた人々のはたらきを発見されたのが親鸞聖人という方でした。南無阿弥陀仏のお念仏に、仏様の呼び声を感じ取っていかれたのです。

「亡き方は、仏と成って還ってこられ、私を導いてくださっている」

「阿弥陀様のはたらきによって、お浄土に生まれさせていただき、仏様に成らせていただく人生を、私も歩んでいるのだ」
「独りじゃない。共に生きてくださる方がいる」
「死んだら、それで終わるような人生ではないのだ」と。

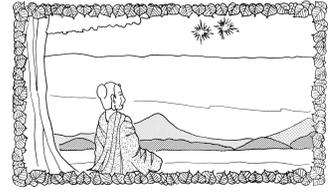
実はこの発見。「親鸞聖人の…」と言うのは、正確な表現で、

はありません。親鸞聖人に先立ち、仏様のはたらき気づかれた人々の歴史があり、その歴史を、親鸞聖人は教えてくださったと言った方が良いでしょう。

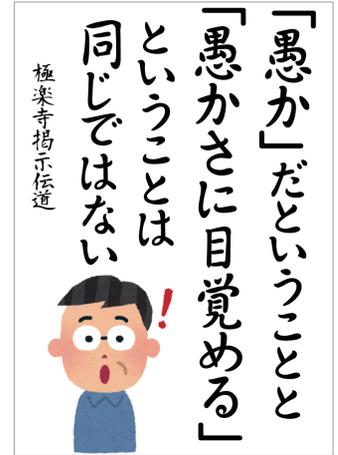
そこにまた、親鸞聖人の教えに導かれ、仏様のはたらきに目覚めた人々が生まれたのです。そんな人々の歩みと歴史が、お取越し報恩講という行事に込められて、私たちのところまで届けられています。「あなたも、阿弥陀様や仏様に成られた方々のはたらきに包まれて、生かされているのですよ」「あなたも、仏様のはたらきに気づいてください」という願いと共に。

南無阿弥陀仏とお念仏を称え、お念仏に込められた仏様のはたらきと呼びかけに目覚めていく。そんな世界に出遇われた人々の歴史を受け継いでいくことが、亡き方を仏様と仰ぎ、これまでもとは別の形で共に生きていく。そんな人生を開いていくのだと教えられます。■





極楽寺掲示伝道 けいじでんどう



10月の言葉

ある男性が足の不調を訴え、病院に行きました。診断後、先生は言いにくそうに、こう告げられたそうです。「骨肉腫です。足を切断しないと生命が危ない。早く手術をした方がいいですね」と。地位もあり、才能にもあふれ、将来を囑望されていた方でした。周りも驚きましたが、何よりもその方自身が驚かれ「まさか、自分がこんな目に…」と、落ち込まれました。しかし、生命に関わることで、仕方ありません。手術を受け、片方の足を切断されたのです。手術後、入院中のベッドでは大きなタオルケットで足を隠し、「こんな姿になって、恥ずかしい」と言われていたそうです。

ある日のこと。その方の奥さんが、同じ病院で一人の女子中学生を見かけました。彼女は交通事故にあつて片足をなくし、まさに男性と同じ状況にありました。それでも、周りの人を思いや

り、周囲までをも明るくするような生き方をしていたのです。奥さんは、「うちの人も、彼女の姿を見てくれないだろうか」と密かに期待されました。



期待通り、病院の売店で男性と彼女は出遇いました。一方は「こんな自分は情けない、恥ずかしい」と呟きながら生きています。一方では同じ状況を明るく、精一杯生きています。そんな二人が出遇ったのです。男性は、彼女の姿に感動されました。そして部屋に戻るなり、足を隠していたタオルケットを投げつけ、仰った一言が：「恥ずかしい！」という言葉だったそうです。それ以来その方は、片足のない自分を懸命に生きられました。手術前と変わらなくらいに仕事をこなされ、スキーにも挑戦されたそうです。

(ラジオ放送『東本願寺の時間』名畑格「二つの恥ずかしい」より)

この男性は、二つの「恥ずかしい」という言葉を使っておられます。一つ目は「こんな自分で恥ずかしい」という、自分を貶める恥ずかしさです。「足を無くした私は、情けない者になってしまった」と自分を蔑み、「みんな元気にやっているのに、どうして俺だけが」と、人と比べて自分を惨めに思う言葉です。では、どうして恥ずかしいのでしょうか。それは、日頃から「年齢をどつ

たら、恥ずかしい」「動けなくなったら、見つともない」「病気に
なったら…」「あんな姿になつたら…」と思いつながら生きてきた
からではないでしょうか。他人を蔑んできた思いが、自らの身に
突きつけられた時に、自分を苦しめる。まさに他人を、そして自
分をも貶める「恥ずかしさ」です。

しかしこの男性は、もう一つ別な意味で「恥ずかしい」という
言葉を使っておられます。こちらは、前の「恥ずかしい」とは全
く意味が違います。自分の人生に向き合い、深く人生を歩む中学
生の姿に出遇ったことで、これまでの生き方が、いかに愚かなも
のだったのかと受け止めた。まさに、気づきの言葉であり、目覚
めの言葉としての「恥ずかしさ」なのです。

親鸞聖人は、自らを「悪人」「愚者」と名のられました。

一般的に「悪人」「愚者」という場合、他人を貶め、蔑む時に
使います。「あいつは、愚かだ」「情けない、恥ずかしい」と。だ
から、そうはなりたくないと思つて生き、いざ自分自身がその立
場になつてしまうと、自らを貶め蔑むのでしょうか。それは男性が、
手術直後に使われていた「恥ずかしい」と同じ態度です。立場が
変わっただけ。他人を蔑むか、自分を貶めるかの違いだけで、生
き方そのものは全く変わつていないのです。↘

しかし、親鸞聖人の「愚者」の名のりは、それらとは全く違
います。男性が、中学生と出遇った後に言われた「恥ずかしい」と
いう一言と同じ、気づきの言葉です。

阿弥陀様と出遇い、これまでの生き方
を恥じ、新たに生き直していこうとす
る、愚かさに目覚めた姿なのです。

小児科医で真宗大谷派（東本願寺）

の僧侶、梶原敬一さんは、

人生はやり直すなどということはできません。／どんなこと
をしていても、人生を反省して新しくはじめれば良いと言っ
れど、反省したくらいではおさまらないことは山ほどある。／
やり直しはきかないけれど、生き直しはできます。／生き直
すことと、やり直すことは、何が違うか。生き直すことができ
るのは、世界が変わるからです。自分が今まで見聞きしていた
世界と違う世界を生きるから、生き直すことができる。／
人間の根性は変わらないかもしれません。でも、人間の根性
は変わらなくても、自分が自分の世界だと思ひ込んでいたもの
が、その感覚が変わることによつて、新しく生き直すことがで
きる。

念仏を聞いたときに、それが可能であるということを、親
↗



鸞聖人が言われたのだらうと思います。親鸞聖人は、新しい世界を生きておられたのだと思います。（『生きる力』梶原敬一）

と言われています。

「愚か」だということと「愚かさに目覚める」ということは、同じではありません。阿弥陀様と出遇い、自分の生き方の「愚かさに目覚める」ことこそが、自らの人生をより豊かに尊いものとしていただくことなのだ、親鸞聖人の生き方から教えられるので

極楽寺だよりを送りませんか



都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。

近頃は、いろんな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情報にふり回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関することについても、都会では気軽に相談するところがありません。お寺を身近に感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」がお役に立つのでは…と思っています。どうぞ遠慮なくお申し出ください。



9月の言葉

この諺は、「稲は成長し、実を熟すほど穂が垂れ下がる」ところから、「人間も学問や徳が深まり、成長するにつれ謙虚になる」ことを表します。同時に「真つすぐ立っている稲穂は、見た目は良いが中身はない」というところから、「小人物ほど尊大にふる舞うものだ」ということでもあります。英語や中国語にも同様のことがわががありますし、誰もが一度は耳にしているほど有名な言葉ですが、改めて聞くととても新鮮に響いてきます。この新鮮さは、どこから来ているのでしょうか。

ある女性が、長年の友人から「あなたは、縁の下の力持ちだからね」と言われました。彼女は、「確かに私の容姿は地味だし、学生時代から今でも裏方に回ることが多い。そんな私をよく知

つていて、友人は褒め言葉で言ってくれたのだろうけれど、少し寂しい気持ちでした」というのです。なぜなら、「私は、いつになったら縁の下から抜け出すことができるのだろうか」と思ったから…。



「自己主張」の時代です。華やかなスポットライトを浴びて目立ちたいと、みんなが実績や業績をアピールし、意見を主張します。SNSのフォロワー数や「いいね！」の多さを競う人、過激な発言で注目を集めようとする人もいます。あたかも、縁の下から抜け出そうとするかのように。

そんなことでしか、認められているという実感や生きていることへの確かさが感じられない時代なのでしょう。以前は、縁の下の人たちを敬う気持ちが、社会で共有されていたはずですが。だからこそ、支えることへのプライドも成立していたのでしょうか。

ある女子中学生は、クラスの中で一番上とされる、おしゃれで派手なグループに属していました。ところが、そのグループから仲間外れにされたことで、保健室で過ごすようになりました。彼女を受け入れようとする生徒もいるのですが、位が低いとされ、

る地味なグループの女の子たちなので、彼女は絶対に嫌だと言うのです。一方で、自分を排除した仲間たちには無視され冷たくあしらわれても、ご機嫌を伺い卑屈な態度で元に戻りたいと切望している。心理学研究家の山竹伸二さんは、「孤独だけが問題なら別のグループの人間に優しくされればその苦しみは癒されるはずなのに、彼女が求めているのはそうではないのだ」と指摘されています。「身分が低い」グループと付き合えば、自分の存在価値が落ちる。それだけは避けたい。そんな抵抗感を持っているのだ。『認められたい』の正体』山竹伸二

自分が認められたい、生きている確かさを感じたいという気持ちは、誰もが持っています。しかしそれが、他人を見下すことでは、誰かが持っていないというのは、虚しい話です。実は、これは彼女だけではなく、多くの思春期の女の子に共通する傾向なのだから。いや、そんな感覚が社会に広がっているからこそ、思春期の女の子に浸透しているのかもしれない。中身よりも、見た目や華やかさが優先される時代なのでしょう。何しろ、目立つために人を傷つけ、殺すような事件、



も起こっているのですから。

精神科医の松本俊彦さんは、

結局、みんな内なる優生思想みたいなものを持っているんだ

と思うんです。自分の中に「人はこうあらねばならない」という幻想の牢獄を自分で作って、その囚人になってしまっている。

たとえば、女性の患者さんで「自分なんか30歳すぎて独身で、嫁き遅れて彼氏もいなくて仕事もしてない。もう死にたい」という人がいるけれど、その内なる優生思想が自分の首を絞めて苦しくなってしまっている。

（文春オンライン『自立とは依存しないことではなく、

依存先を増やすことだ 若者の自殺に詳しい松本俊彦さんに聞く』

と指摘しておられます。

この場合の「こうあらねばならない」という思いは、高い倫理観や崇高な思想に基づいたものではありません。周りの目を気にして、決めつけているだけのこと。それは、どう生きるべきかという中身よりも、見た目の華やかさを求める時代が生んだ幻想の牢獄です。みんながそこに囚われているから、中身があっても地味なものに評価されない。だからこそ「実るほど頭を垂れる…」という諺が、新鮮なものとして響いてくるのではないかと思うのです。 ↘

以前、テレビの討論番組で、精神科医の泉谷閑示さんが「人生の意義と意味」について語られていました。「これは、僕の独特な解釈なのかもしれませんが」と前置きをした上で、「意義とは、役に立つとか儲かるとか、目に見える量的なものに置きかえられる。しかし、意味は味という字を使っているように、味わうような感動があるもの。それは数値化できない」といわれていました。

（NHK Eテレ『ニッポンのジレンマ』二〇一九年二月二十三日）

目立つものや派手なものは、誰の目にも映ります。しかし、見えにくいもの、地味なもの良さは、目を凝らさなくてはわかりません。数値化できるものはわかりやすく、数値化できないものの良さを感じ、味わうのは難しい。複雑さが織り成す豊かさ、ほのかな香り、隠し味や苦味があるがゆえの深みは、こちら側が成熟しなければわからな

い世界です。人生の味わいも、縁の下の人たちへの敬意も、心が豊かに成長しなければ、感じることはできません。



親鸞聖人は、八十八歳の時のお手紙に「お師匠の法然聖人から、浄土の教えに生きる人は「愚者になりて往生す」と言われたこと」

が、事あるごとに思いあわされる」と書かれています。

このお言葉を、私の尊敬する宮城顕先生は「愚者であるのではなくて愚者になるのです。／愚者にまで成長するといつてもいいのだと言われています。普通に考えると、おかしな話です。普通は、知識を身につけ、知者になることを「成長する」といいます。しかし宮城先生は、わかったことにし、レッテルを貼り、知者としてふるまう時、私たちは事実から離れていく。決めつけた時に、世界の豊かさを見失うのだといわれるのです。

『愚者になりて―賢さを求める現代の中で』(宮城顕)
確かに、自分の知識だけで世界を決めつけることは、傲慢な態度です。私の知っていることは、一部分でしかない。世界はもつと豊かだし、広く深いはずだという「愚者」の態度が、学びの姿勢を生み「成長する」ことになるでしょう。その歩みの中で、味わいを感じる心が育てられ、まことの道を歩む実感を得ることができるよう。それが「愚者になりて往生す」ということだと教えられます。



二十世紀最大の物理学者アインシュタイン博士は「学べば学ぶほど、自分がどれだけ無知であるか思い知らされる。自分の無知に気づけば気づくほど、より」

「一層学びたくなる」といわれています。本物の学びとは、実るほどに謙虚さを生み、頭が下がるものなのでしょう。それは、私を取り巻く世界の豊かさと深さを知ることであり、私たちが囚われている幻想の牢獄から抜け出すことでもあるのです。■

グローバル社会と言われて、久しくなりました。これからは海外に出る人だけではなく、日本に住む人にも、異宗教、異文化の方々の共存が必要な時代になります。そんな時代を生きるためには「自分の意見を主張できるスキルが必要だ」とも主張される方も多くおられます。なぜなら海外では、「空気を読む」ことや「推して知るべし」が美德とされる日本とは違うから。

そう言われる方々に、ぜひ『異教の隣人』(釈徹宗+毎日新聞『異教の隣人』取材班)という本をお読みいただきたいのです。異国の地で生きていこうとする人々と、その心より所である宗教施設を訪ね歩いたルポルタージュです。これを読むと意見の主張よりも、想像力や感じとる力、学びの力がより重要だということが、本当によくわかります。おススメです！(住職)



極楽寺 NEWS



ぜんぼうもり 前坊守の 手作りマスク 本堂にて配布しています。



男性用・女性用・子ども用が、
用意してあります。

新型コロナウイルスの影響で、マスクが手放せない状況です。
極楽寺では、前坊守が手作りしたマスクを本堂に置いて、どなたでも持ち帰り
いただけるようにしています。お盆時期には、納骨堂にお参りされた方々に、
とても喜ばれました。本堂に置いてありますので、阿弥陀様にお礼をした後、
ご自由にお持ち帰りください。どなたでも、遠慮なさらずに！

物でお布施

家庭で眠っている物を、周りの人のために、活かしませんか。
下記の物があれば、お寺までお持ちください。

書き損じはがき・未使用切手・商品券
未使用テレフォンカード・ビール券など金券
CD・DVD・ゲームソフト・ゲーム機器



極楽寺ホームページ

極楽寺.com で検索を

極楽寺だよりの過去の記事をはじめ、
盛りだくさんの内容です。



住職のつぶやき
□ケーブルテレビやインターネットのおかげで、カープの全試合を見ることができるようになりました。しかし今年に限っては、それがつらく苦しい時間を生み出す元になっています。□今年のカープは、どうなっているのでしょうか。歯車が噛み合わず、何をやってもうまくいきません。ポヤキながら、愚痴りながら、それでも試合は必ず最後まで見ています。その苦しいこと。中継がなければ、見なくて済むのですが。だったら、見なきゃいいのに…と思われる方もあるでしょう。しかし、調子が良い時だけ応援して、悪くなったら逃げ出すのは、ファンとしていかなものか、などと思ってしまうのです。□阿弥陀様は、良い時もダメな時も、いつもそばにいてくださる仏様です。その阿弥陀様のはたらきに、私も育てられているのでしょうか。いや、こんなに愚痴りながら見ているのですから、とてもそんなこと言えそうにありません。(住職)